

令和3年度 秋の公開

## 社会科学学習指導案

指導者 北信教育事務所 指導主事 内川 啓 先生  
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 准教授 篠崎 正典 先生  
日 時 令和3年10月28日(木)  
授業学級 1年B組(41名)  
授業会場 武道場  
小单元名 「人口問題を通して捉えるアジア州の地域的特色」  
授業者 富田 武

### I 本校全体の研究

- 1 目指す生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・社会1
- 2 全校研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・社会1
- 3 研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・社会1
- 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ・・社会2

### II 社会科の研究

- 1 社会科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・社会3
- 2 教科としての全校研究テーマの受け止め・・・・・・・・社会3
- 3 研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・社会3

### III 小单元の指導計画

- 1 小单元名・学年・・・・・・・・・・・・社会6
- 2 小单元の目標・・・・・・・・・・・・社会6
- 3 小单元の評価規準・・・・・・・・・・・・社会6
- 4 社会科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・社会6
- 5 小单元に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・社会6
- 6 小单元展開・・・・・・・・・・・・社会9

信州大学教育学部附属長野中学校 社会科

研究者 富田 武 武井 正樹  
山戸 規貴 百田 美希

# I 本校全体の研究

## 1 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

## 2 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

## 3 研究の重点

- (1) 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。 (重点1)
- (2) 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。 (重点2)

昨年度までの成果と課題から、本年度は、目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」とし、研究を進めていくこととした。「学びを拓いていく生徒」とは、①「各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒」と②「①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と、捉えている。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説の第1章総説には、「これからの時代を生きる生徒は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示されている。

このような力を育成するためには、中学校において、生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて、各教科等の資質・能力の育成につなげていくことが求められている。「見方・考え方」そのものは資質・能力に含まれるものではないが、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、各教科等の学習と社会とをつなぐものである。また、本校では、学習の基盤となる資質・能力のうち、「問題発見・解決能力」が、生徒の生涯にわたる学びの基盤となるものと考え、研究の重点1を「問題発見・解決の過程において、各教科等の『見方・考え方』を働かせることができるようにする」と据えた。

各教科等で身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていくことができるようにするためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するなど、生徒が各教科等の学習の有用性を認識していく必要がある。そこで、研究の重点2を「学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」と据えた。「学んだこと」だけでなく、「学んでいること」を付け加えたのは、単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えたためである。

各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことが「各教科等の本質」であるとするならば、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉える。そこで、「学びを拓いていく生徒」を育成するために、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、研究を進めていくこととした。

#### 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等の資質・能力を育成するため、本年度の各教科等の研究テーマを下記のように決め出した。

| 各教科等  | 各教科等で育成を目指す資質・能力   | 各教科等の研究テーマ  |
|-------|--|---|
| 国語    | 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力  | 文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方   |
| 社会    | 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎        | 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方  |
| 数学    | 数学的に考える資質・能力   | 数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方                                     |
| 理科    | 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力   | 観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方   |
| 音楽    | 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力  | 音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方  |
| 美術    | 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力  | 主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方  |
| 保健体育  | 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力                  | 運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方   |
| 技術・家庭 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力                               | (技術分野) 社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方<br>(家庭分野) 生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方 |
| 英語    | 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力                         | 事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方   |
| 道徳    | よりよく生きるための基盤となる道徳性   | 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方  |
| 総合    | よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力  | 自ら課題を設定する力を高める学習の在り方  |
| 特別活動  | 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力 | 学校生活をよりよくするための課題を見いだし、解決する力を高める学習の在り方   |

## II 社会科の研究

### 1 社会科の研究テーマ

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方

### 2 教科としての全校研究テーマの受け止め

「ラーメンを通して捉える世界各地における人々の生活」(令和3年8月・1年)では、自然環境や社会的条件から人々の生活の特色を捉える学習を構想した。そこでは、世界各地の「気候」「食文化」「宗教」などの必要な情報をまとめた「リサーチシート」を基に、そこに住む人々に受け入れられる「ラーメンの食材」と「店舗の造り」を検討する展開を位置付けた。

S生は、「ラーメンの食材」や「店舗の造り」を決めるため

には、その地域の気候、植生などの自然環境や食文化、住居、宗教などの社会的条件を調べることが必要だと考え、5か国(表1)の自然環境と社会的条件を「リサーチシート」にまとめた(表2)。

S生は、その後、教師から提示された出店場所(サウジアラビア)について、「リサーチシート」にまとめた情報を基に、そこに住む人々に受け入れられる「ラーメンの食材」と「店舗の造り」について自分の考えをもった。S生は、焼畑農業によって地元で収穫したとうもろこしを麺の原料にしたり、サウジアラビアは乾燥帯に位置するので、強い日差しを防ぐために日干しレンガを用いた伝統的な店舗の造りにしたりした。S生は同じ出店場所の友と班になり「ラーメンの食材」や「店舗の造り」を検討した際、「リサーチシート」を基にした考えの相違点から、サウジアラビアでは小麦を食べる習慣があり、外国から小麦を輸入していることやイスラム教では女性は肌を露出することができないので配慮する必要があることに気付いた。その後、S生は、輸入した小麦で麺をつくり、地元で収穫したとうもろこしをトッピングとして使うことや、伝統的な日干しレンガの造りで店内に個室を配置することを決めた。本校社会科では、このようなS生の姿を「地理的な見方・考え方」を働かせ、自然環境や社会的条件から人々の生活の特色を捉え、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高めた姿と捉える。

単元の終末、単元を通して学んだことを振り返る活動を位置付けた。S生は、「国の特色を調べる時には、気候などの自然環境と生活・文化、他地域との関係など社会的条件から考察することで、その地域の特色を捉えることができる。」と述べた。本校社会科では、このようなS生の姿を学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。このような学習を積み重ねていくことで、社会科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

### 3 研究内容

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説の社会編第1章総説には、地理的分野の改訂の要点として、①「世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入」、②「日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化」が挙げられている。①「世界の諸地域学習に

表1 設定した国と気候

| 国名      | 気候    |
|---------|-------|
| イタリア    | 温帯    |
| ロシア     | 寒帯・冷帯 |
| サウジアラビア | 乾燥帯   |
| フィジー    | 熱帯    |
| ペルー     | 高山気候  |

表2 S生がまとめたリサーチシートの一部

| 国名      | 気候・植生   | 食文化  | 住居                                       | 宗教             | その他   |
|---------|---|--|--|----------------|---|
| サウジアラビア | 気候帯…乾燥帯<br>気候名…砂漠気候<br>砂漠(砂漠化)<br>ステップ<br>雨が少なく乾燥した | ひえ、とうもろこし<br>焼畑農業<br>穀物<br>穀物・もち おかゆ<br>羊の乳<br>バター、ヨーグルト | 年中暑く、日差しが強い<br>日干しレンガ<br>*遊牧民<br>ら布・モヘット | イスラム教<br>アルコール | 自然の氷、井戸<br>水が得られる<br>オアシス<br>サハラ…人(住)<br>遊牧 |

おける地球的課題の視点の導入」については、環境問題等の地球的課題が一層深刻化する現状において、世界の諸地域の多様性に関わる基礎的・基本的な知識を身に付け、世界全体の地理的認識を養うとともに世界各地で見られる地球的課題について地域性を踏まえて適切に捉えることが求められているためである。②「日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化」については、諸地域の単なる地誌的な知識の習得に偏重した学習に陥ることなく、より動態地誌的な考え方の趣旨に沿った展開ができるよう意図したものである。そこで地理的分野の諸地域学習（「世界の諸地域」「日本の諸地域」「地域の在り方」）では、地域的特色を捉えるために、そこで見られる課題を人々の生活の特色と関連付けて考察できるようにする。世界の各州や日本国内の七地方区分など範囲の大きさに関係なく、そこで見られる課題は自然環境や社会的条件から影響を受けて人々の生活の特色として表れるからである。地理的分野における諸地域学習を充実させることで、3年次の公民的分野における国際社会で見られる課題を考察する際にも生かされ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高めることができる考えた。

この3点を踏まえ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高めるために、地理的分野（1、2年）と公民的分野（3年）における本校生徒の実態と、中学校学習指導要領社会科で育成すべき資質・能力から、社会科の研究テーマを具現するために至りたい各学年の段階を決め出し、3年間の構想図を作成した（図1）。本研究では地理的分野に焦点を当てて社会科の研究テーマの具現を目指す。

### 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力の高まり

#### 3学年：【よりよい社会の形成を視野に、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察できる。】

|                           |   |   |   |
|---------------------------|---|---|---|
| よりよい社会を形成するために私たちにできること   | 持続可能な社会を形成するために解決すべき課題について、整理・分析・表現する学習 | ▶ | 身近な地域や国の取組との関連性に着目して、世界的な視野と地域的な視点に立って考察したこと基于、解決方法を検討する展開を位置付ける。 |
| 国際社会の課題を通して捉える国家間の相互理解と協力 | 各地域の地域的特色を基に地球的課題の解決方法を構想してまとめる学習       |   | 国際連合や国の取組との関連性に着目し、世界的な視野に立って考察したことを基に、解決方法を検討する展開を位置付ける。         |

#### 2学年：【地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察できる。】

|                        |   |   |   |
|------------------------|---|---|---|
| 地理的な課題から構想する身近な地域の未来   | 身近な地域の地域的特色を捉え、地理的な課題の解決に向けて地域の在り方を構想する学習 | ▶ | 地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目して地域の魅力と課題を明らかにして、今後の地域の在り方を考察し、表現する展開を位置付ける。 |
| 地域的課題を通して捉える日本各地の地域的特色 | 中核とする地理的な事象から日本各地の地域的特色を捉える学習             |   | 中核とする考察の仕方を選択して、複数の資料から読み取った地理的な事象を関連付けて、地域的特色をまとめ、表現する展開を位置付ける。      |

#### 1学年：【世界の各地域で見られる特色と関連付けて地球的課題の要因や影響を多面的・多角的に考察できる。】

|                            |                             |   |  |
|----------------------------|-----------------------------|---|--|
| 地球的課題を通して捉える世界各地の地域的特色（単元） | 人口問題からアジア州の地域的特色を捉える学習（小単元） | ▶ | 「自然環境」、「人口や都市・農村」、「産業」、「交通や通信」、「歴史・文化」の視点で「Asian board」にまとめた情報を基に、そこで見られる人口問題とアジア各地の地域的特色を関連付けて考察し、表現する展開を位置付ける。 |
| ラーメンを通して捉える世界各地における人々の生活   | 自然環境や社会的条件から人々の生活の特色を捉える学習  |   | 世界各地の「気候」「食文化」「宗教」などの必要な情報をまとめた「リサーチシート」を基に、そこに住む人々に受け入れられる「ラーメンの食材」と「店舗の造り」を検討する展開を位置付ける。                       |

※上記の図は、以下のような構成となっている。

#### 学年：【社会科の研究テーマを具現するために至りたい各学年の段階】

単元名

【学習】

【単元の手だて】

図1 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高めるための3年間の構想



(1) 地球的課題について地域性を踏まえて適切に捉えるための単元構成と主題の設定

本単元「世界の諸地域」の扱いについて、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の社会編第 2 章社会科の目標及び内容には、「各州を取り上げる順序は、設定された主題に対する生徒の理解しやすさなどを踏まえて検討することが必要である。」とある。本校社会科では、表 3 のように本単元を構成し、単元の始めはアフリカ州において、主題「貧しい暮らしからの転換」を設定する。アフリカ州で見られる地球的課題である「貧困問題」は、乾燥帯・砂漠など厳しい自然環境が背景となっており、前単元で人々の生活が自然環境の影響を受けることを学習した生徒にとって、学習した内容を結び付けやすいと考える。アフリカ州以降

表 3 地理的分野「世界の諸地域」の扱い ※扱う順番で記載

| 地域名    | 主題              | 地球的課題  | 時数 |
|--------|-----------------|--------|----|
| アフリカ州  | 貧しい暮らしからの転換     | 貧困問題   | 4  |
| ヨーロッパ州 | 国同士の結び付きがもたらす変化 | 経済格差   | 5  |
| 北アメリカ州 | 世界を支える巨大な産業     | 経済格差   | 5  |
| 南アメリカ州 | 豊かな自然と人々の営み     | 環境問題   | 3  |
| オセアニア州 | ヨーロッパからアジアへ     | 多文化の共生 | 3  |
| アジア州   | 人口分布の偏り         | 人口問題   | 7  |

は、生徒がイメージをもちやすい地域であったり、地域的特色を考察するための基礎的・基本的な知識が多かったりするヨーロッパ州、北アメリカ州の順番で扱い、時数をかけて地域的特色を考察する視点や方法を身に付けることで、南アメリカ州とオセアニア州では、時数をかけずに考察することができると考えた。本単元の最後に扱うアジア州は、他の州と違い、同じ州の中でも地域的特色に大きな差異が見られるため、一つの地域として捉えにくい。そこで各州の学習を通して、各地域で見られる特色を地球的課題の要因や影響と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する学習を積み上げてから本小単元に入ることが、差異の大きいアジア州の地域的特色を地球的課題の要因や影響と関連付けて考察する際に有効だと考えた。

(2) 地域的特色を大観し、主題について考察するための「(地域名) board」の作成

本単元では、各州の地域的特色を大観し、主題について考察するために「(地域名) board」を用いる。ここでは本小単元で扱う「Asian board」(図 2) を例に挙げて説明する。「Asian board」の構成は、行政区分と地形(図 2 ①)、アジア州の白地図(図 2 ②)、アジア州の位置(図 2 ③)、情報を整理する視点「自然環境」「人口や都市・農村」「産業」「交通や通信」「歴史・文化」(図 2 ④)とする。この五つの視点について、本校社会科としては、地域的特色を網羅的に細かく学習するのではなく、概略的な世界像を形成するために必要な五つと考えた。この五つの視点は、次の単元「日本の諸地域」で用いる考察の仕方と同様の視点である。「世界の諸地域」で地域的特色の考察の視点や方法を学習することで「日本の諸地域」の学習が、より動態地誌的な趣旨に沿って展開できると考える。さらにアジア州以外の州を学習する際にも「(地域名) board」を同様の構成で用いることで、アジア州を学習するまでに地域的特色を大観するための考察の視点や方法が定着すると考える。

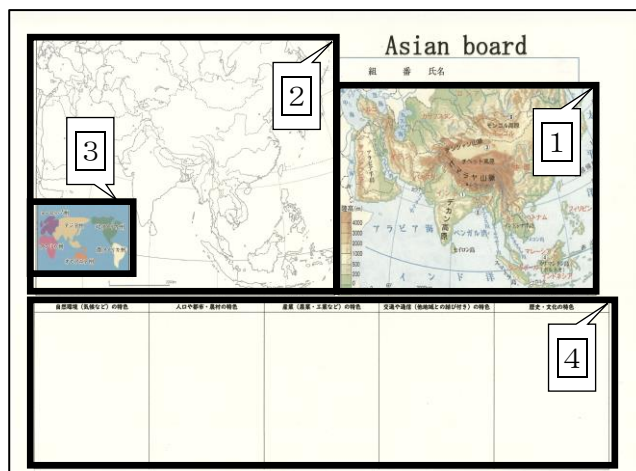


図 2 Asian board

Ⅲ 小単元の指導計画

1 小単元名・学年 「人口問題を通して捉えるアジア州の地域的特色」・1 年

## 2 小単元の目標 ※【 】内は、学習指導要領との関連を指している

### (1) 知識及び技能【B(2)ア(ア)(イ)】

アジア州で顕在化している人口問題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることやアジア州に暮らす人々の生活を基に、アジア州の地域的特色を大観し理解するとともに、アジア州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などを「Asian board」にまとめることができる。

### (2) 思考力、判断力、表現力等【B(2)イ(ア)】

アジア州において、各地域で見られる人口問題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

### (3) 学びに向かう力、人間性等

アジア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題の人口問題について主体的に追究しようとする。

## 3 小単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|---|--|
| <b>知</b> アジア州で顕在化している人口問題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。<br><b>①</b> アジア州に暮らす人々の生活を基に、アジア州の地域的特色を大観し理解している。<br><b>②</b> アジア州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などを「Asian board」にまとめている。 | <b>思</b> アジア州において、各地域で見られる人口問題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 | <b>態</b> アジア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題の人口問題について主体的に追究している。 |

## 4 社会科として、全校研究テーマに迫るための仮説

### (1) 重点1に関わる仮説

- ・「自然環境」、「人口や都市・農村」、「産業」、「交通や通信」、「歴史・文化」の視点で「Asian board」にまとめた情報を基に、アジア州で見られる人口問題の要因や影響を、概観した地域的特色と関連付けて考察し、表現する展開を位置付ける。このようにすることで「地理的な見方・考え方」を働かせ、人口問題からアジア州の地域的特色を捉えることができる。(単元)
- ・「自然環境」、「人口や都市・農村」、「産業」、「交通や通信」、「歴史・文化」の視点で「Asian board」にまとめた情報を基に、主題「人口分布の偏り」の要因や影響について解釈する活動を位置付ける。このようにすることで、主題「人口分布の偏り」とアジア各地の人々の生活を関連付けて考察することができる。(本時)

### (2) 重点2に関わる仮説

- ・小単元の終末、アジア各地でみられる「人口分布の偏り」の要因や影響を日本や身近な地域に当てはめて考察し、学習を振り返る活動を位置付ける。このようにすることで、「人口問題」から見る地域的特色について、学んだことの意味や価値を自覚することができる。

## 5 小単元に寄せた教材化

本単元「世界の諸地域」は、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観するとともに、世界の各地域で見られる地域的特色を地球的課

題の要因や影響とを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することをねらいとしている。

主題を「人口分布の偏り」に設定する理由は、アジア州には世界の人口の約6割にあたる約45億人の人々が暮らしており、人口が多い地域であることや地域によって人口分布に大きな差異が見られるからである。さらに国内外への人口移動も特色として挙げられる。これはアジア州が五つの気候帯に属しており、山脈・砂漠など様々な地形が見られることや経済発展を目的として外国企業を受け入れたことなどが要因である。豊富な労働力や資源が世界から注目される一方で、人口分布の偏りによる課題も見られる。食料やエネルギー資源の確保、都市と農村の経済格差、都市の人口増加によるスラム化や都市問題など人々の生活に関わる問題がアジア各地で起きている。以上の点から「人口」に関わる主題を設定して学習を展開することで、アジア州の地域的特色を、「自然環境」、「人口や都市・農村」、「産業」、「交通や通信」、「歴史・文化」の視点で「Asian board」にまとめた情報を基に、アジア州で見られる地球的課題の要因や影響と関連付けて理解できると考えた。

(1) 「自然環境」、「人口や都市・農村」、「産業」、「交通や通信」、「歴史・文化」の視点で「Asian board」にまとめた情報を基に、アジア州で見られる人口問題の要因や影響を、概観した地域的特色と関連付けて考察し、表現する展開を位置付ける

第1時、教師はアジア州のイメージを生徒に問う。生徒は「中国やインドがあるから、これまでの州と比べると人口がとても多い州」「ヨーロッパ州や北アメリカ州と比べると発展途上国が多い地域」など、既習内容を踏まえて発言するだろう。そこで教師は、単元の学習問題「アジア州には、どのような特色があるのだろうか。」を設定し、アジア州の地域的特色を追究していくことを確認する。生徒はこれまでの州で「(地域名) board」に必要な情報をまとめてきたため、本小单元においても、「(地域名) board」でまとめていくことで、アジア州の特色を捉えることができそうだという見通しもつだろう。

第2～3時、教師は教科書や資料集、地図帳、インターネットを用いて「Asian board」(図3)をまとめる場を設定する。生徒は、自然環境や歴史・文化の欄に、五つの気候帯が見られることや食文化に違いが見られることをまとめ、人口や都市・農村、産業、交通や通信の欄には、アジア州に世界の人口の約60%の人々が住んでいることや人口が増加していること、アジア各地で産業が発達していることなどをまとめていくだろう(図3①)。

| 自然環境(気候など)の特色  | 歴史・文化の特色  |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・温帯: アジア東部</li> <li>・熱帯: アジア南部・南東部</li> <li>・乾燥帯: 内陸</li> <li>・寒帯・冷帯: シベリア</li> <li>・ヒマラヤ山脈: 「世界の屋根」</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(19世紀)</li> <li>アフリカ・ヨーロッパによるアジア植民地拡大</li> <li>(食文化)</li> <li>米: 東南・南アジア(稲米)の主食</li> <li>小麦: 中央・西アジア(小麦)の主食</li> </ul> |

| 人口や都市・農村の特色  | 産業(農業・工業など)の特色  | 交通や通信(他地域との結び付き)の特色  |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の人口の約60%が住む</li> <li>人口増加</li> <li>中国 14.3億人</li> <li>インド 13.7億人</li> <li>インドネシア 2.7億人 (2014)</li> <li>経済成長</li> <li>都市問題</li> <li>中国 中心部(過密)</li> <li>中国 環境問題</li> <li>ASEAN スラム</li> <li>中国 沿岸部と内陸部の格差</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>アジアNIES(新興工業経済地域)</li> <li>韓国 シンガポール 台湾 香港</li> <li>国際的企業や銀行ほかの拠点集積</li> <li>経済活動が活発に行われている</li> <li>経済特区 中国</li> <li>外国企業・投資を受け入れる</li> <li>東南アジア諸国連合(ASEAN)</li> <li>東南アジアの発展を目指す</li> <li>ICT産業(インド(バンガロール))</li> <li>欧米企業が進出している</li> <li>石油輸出国機構(OPEC)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道の整備... 郊外と中心部</li> <li>→ 通学解消!</li> <li>西部大開発... 内陸部・大規模開発</li> <li>→ 交通網の整備</li> <li>道路・鉄道の整備</li> <li>→ 問題・解消へ!</li> <li>道路の整備</li> </ul> |

図3 「Asian board」の一部(例)

第4時(本時)、教師は、アジア州で設定する主題について予想するように促す。生徒は「Asian board」にまとめた情報を振り返り、「人口」「経済発展」「外国企業」に関わることなどを挙げるだろう。教師は、アジア州の人口分布に関する資料を配付し、主題を「人口分布の偏り」と設定する。そこで学習課題「『Asian board』にまとめた情報を基に、地域的特色を主題「人口分布の偏り」の要因や影響と関連付けて考えよう。」を据える。生徒は、「アジア NIES と呼ばれる国や地域がある」「アジア各地で経済活動が活発になっている」「中心部に人口が集中している」



など、「Asian board」にまとめた情報同士を関連付け、「東アジアの大韓民国や香港などアジア NIES と呼ばれる国や地域では、急激な経済発展を遂げた結果、中心部の狭い地域に人口が集中して住宅が不足したり、地価が高くなったりしている。」などと考察していこう。教師は、考察した考えを友と発表し合う場を設ける。生徒は、「中国では外国企業を受け入れている」という友の考えを聞き、自身の「Asian board」にまとめた「沿岸部には人口が多く、内陸部には人口が少ない」などの情報を関連付け、「中国では、経済発展のために経済特区を設けて外国企業を受け入れた結果、沿岸部の人口が急増する反面、内陸部の人口が減ったことで、経済格差が広がっているのではないか。」など、その他のアジア州の地域的特色を、主題

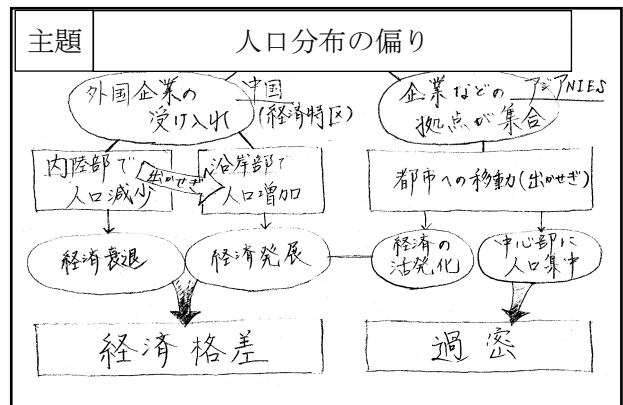


図4 主題追究の一部(例)

「人口分布の偏り」の要因や影響と関連付けて考察していこう。(図4)

第5時、教師は、第4時に考察することができなかった他のアジア各地の「人口分布の偏り」の要因や影響を「Asian board」にまとめた情報を基に友と発表し合う場を設ける。生徒は、東南アジアでは外国企業を受け入れたり、ASEAN を結成して、加盟国間の結び付きを強めたりすることで、工業製品を世界各地に輸出するようになったことと「人口分布の偏り」の要因や影響とを関連付けて「仕事や高い収入を求めて、農村から都市部へ出かせぎに来るようになり、都市部で暮らす人々と農村で暮らす人々の収入の格差が広がったことで、都市ではスラムと呼ばれる生活環境の悪い地域ができたり、交通量が増えて渋滞が激しくなったりする都市問題が起きている。」などとまとめていこう。

第6時、教師は単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる場を設定する。生徒は「アジア NIES と呼ばれる国や地域では、都市の中心部に人口が集中して住宅が不足したり、地価が高くなったりしている。戦後、工業化に取り組み、大韓民国では南東部の沿岸地域を中心に重化学工業が発展し、シンガポールや香港は物流の中心地として港や空港が整備されたからである。一方中国では沿岸部と内陸部の経済格差が広がっている。経済発展を目的とした経済特区を沿岸部に設け、外国企業が中国に進出したことで、仕事や高い収入を求めて山脈や砂漠がある内陸部や農村から沿岸部へ人口が移動したからである。」などと述べるだろう。以上のような展開を位置付けることで、生徒は「地理的な見方・考え方」を働かせ、人口問題からアジア州の地域的特色を捉えることができるだろう。

## (2) 小単元の終末、アジア各地で見られる「人口分布の偏り」の要因や影響を日本や身近な地域に当てはめて考察し、学習を振り返る活動を位置付ける

教師は、小単元の終末、アジア各地で見られる「人口分布の偏り」の要因や影響を日本や身近な地域に当てはめて、考えられることをワークシートにまとめるように促す。生徒はアジア州と同じように日本においても山間地周辺は人口が少なく沿岸部に人口が多いこと、沿岸部で工業が発達していることなどの共通点に気づき、学習したことが日本や長野県においても当てはまることをまとめていこう。さらに疑問点として、「日本でも内陸部と沿岸部の経済格差は見られるのだろうか。」「アジア州で見られる都市問題は、日本では起きていないのだろうか。」など、アジア州の学習を通して学んだことが日本や身近な地域でも見られることや、アジア州にしか見られないこともあることに気付くとともに、日本や長野県など身近な地域の学習に期待を高めていこう。小単元の終末にこのような場面を位置付けることで、生徒は学んだことの意味や価値を自覚することができるのではないかと考えた。

6 小単元展開 人口問題からアジア州の地域的特色を捉える学習

全7時間扱い 本時は第4時

| 段階  | ◆学習  |  | 評価の観点                     | 時間 |
|---|--|--|---------------------------|----|
|   | 教師の指導・支援   | 予想される生徒の反応   |                           |    |
| 導入  | ◆アジア州の地域的特色を追究していくという単元の見通しをもつ。  |  | ○ <b>態</b><br>(観察・ワークシート) | 1  |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア州に対してもイメージを尋ねる。</li> <li>アやイのような反応から、単元の学習問題「アジア州には、どのような特色があるのだろうか。」を設定し、エのような反応から、「Asian board」にまとめていくことを提案する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ア これまで学習してきた州と比べると中国やインドがあるからとても人口の多い州だ。</li> <li>イ ヨーロッパ州や北アメリカ州と比べると貧しい暮らしをしていたり、発展途上国が多かったりするイメージもある。</li> <li>ウ これまでの州と同じように board にまとめていくことで特色がまとめられそうだ。</li> <li>エ 教科書や資料集、地図帳、インターネットを使って、「自然環境」「人口や都市・農村」「産業」「交通や通信」「歴史・文化」の五つの視点に分けてまとめて、それぞれの視点にまとめたことが関係していないか考えていこう。</li> </ul> |                           |    |
|   | ◆「Asian board」をまとめ、アジア州の人々の生活を捉える。   |  |                           |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>エのような反応から、学習課題「五つの視点に分けて『Asian board』をまとめよう。」を据え、教科書や資料集、地図帳、インターネットなどを用いて「Asian board」をまとめるように促す。</li> <li>白地図を利用することや視点ごとにまとめたことにつながりがないか考えるように促す。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>オ アジア州は範囲が東西南北に広いので、気候が地域によって異なり、五つの気候帯が見られる。地形の特色としては、ヒマラヤ山脈やチベット高原、ゴビ砂漠など多様な自然環境が見られる地域だ。</li> <li>カ 気候が地域によって違うので、主食が米の地域もあれば、小麦の地域もあるようだ。</li> <li>キ 「人口や都市・農村」の視点で調べてみると、世界の60%の人々がアジア州に暮らしていて、中国やインドは人口が増加している。「産業」の視点では、豊富な労働力と外国企業の受け入れによって産業が発達してきている。</li> <li>ク 外国企業を受け入れるために経済特区を設けたことで、経済が発展した中国のような国もあれば、ASEAN や OPEC のように地域内で組織を設立して経済発展を目指している地域もある。</li> <li>ケ アジア州の中でも東アジアや東南アジアなど、さらに細かい地域で特色が異なっている。アジア各地の気候区分や降水量などの分布図を白地図にまとめて、農業や工業などの産業に影響がないか調べてみよう。</li> </ul> |  |                           |    |
| ◆「Asian board」にまとめた情報を基に、主題「人口分布の偏り」について考察する。   |  | ○ <b>思</b> ○ <b>知</b><br>① (ワークシート)  |                           |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア州では、どのような主題で追究していけばよさそうか尋ねる。</li> <li>サのような反応から、アジア州の人口分布に関する資料を配付し、主題「人口分布の偏り」を設定してから、学習課題「『Asian board』にまとめた情報を基に、地域的特色を主題「人口分布の偏り」の要因や影響と関連付けて考えよう。」を据える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>コ 「他地域とのつながり」に着目した K さんは「外国企業」に関わることを予想している。</li> <li>サ 他の欄に比べて「人口や都市・農村」の欄にたくさんの情報があるから、「人口」に関わることはないだろうか。</li> <li>シ 東アジアの大韓民国や香港などアジア NIES と呼ばれる国や地域がある。</li> <li>ス 一部の地域ではなくアジア各地で経済活動が活発になっている。</li> <li>セ 経済活動が活発になっている都市では中心部に人口が集中している。</li> <li>ソ 東アジアの大韓民国や香港などアジア NIES と呼ばれる国や地域では、急激な経済発展を遂げた結果、中心部の狭い地域に人口が集中して過密が起こり、住宅が不足したり地価が高くなったりしている。</li> <li>タ 主題について、友はどのようなまとめをしているのだろう。</li> </ul>   |  |                           |    |
| 5分  | 15分  |  | 5分                        |    |

|        |   |   |                         |  |
|--------|---|---|-------------------------|--|
| 展<br>開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タのような反応から、4人グループを作り、考察したことを発表し合うように促す。</li> <li>・主題「人口分布の偏り」の要因や影響について全体共有をする場を設ける。</li> <li>・本時の振り返りをするように促す。</li> </ul> | <p>チ 中国では経済特区という場所を設けて外国企業を受け入れたことが人口の移動に関係しているのではないかとMさんは言っていた。</p> <p>ツ Mさんの意見を聞いて、Yさんは、中国の沿岸部の人口が多く、内陸部には人口が少ないと言っていた。</p> <p>テ 中国では、経済発展のために経済特区を設けて外国企業を受け入れた結果、沿岸部の人口が急増する反面、内陸部の人口が減ったことで、経済格差が広がっているのではないか。</p> <p>ト アジア NIES と中国は、経済が活発になったり、経済発展をしたりしたけれど、その反面、中心部に人口が集中する過密や、内陸部から沿岸部に人が移動して経済格差が広がる問題が起きている。</p> <p>ナ 「人口分布の偏り」がアジア州の特色や課題につながっていることが分かった。</p> <p>ニ 東南アジアや西アジアの「人口分布の偏り」の要因や影響についても友の考えを聞いてみたい。</p> | 15分<br><br>8分<br><br>7分 | <p style="text-align: center;">↓</p>                                   |
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニのような反応から、前時に引き続き4人グループを作り、主題「人口分布の偏り」の要因や影響について考察したことを発表し合う場を設ける。</li> </ul>   | <p>ヌ 東南アジアの人口分布の偏りに着目したNさんは、ASEANの設立で国同士が協力し合い、経済発展を目指したことで、仕事や高い収入を求めて都市部に人口が集中して経済は成長しているが、都市の人口が増加したことによってスラムと呼ばれる生活環境の悪い地域ができたり、土地の値段が上がったりしていることや交通量が増えて渋滞が日常的に起きたりしている地域もあると言っていた。</p> <p>ネ 「Asian board」を基に、アジア州を「人口分布の偏り」で考えると、地域ごとに外国企業を受け入れたり、地域内で協力したりすることで経済発展が進んでいる反面、人口の増加や移動によって、国内の格差が広がったり、都市化による生活環境の悪化や渋滞などの都市問題も起きたりしていることが分かった。</p>  |                         |  |
| 終<br>末 | <p>◆アジア州の地域的特色をまとめ、単元を通して学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習問題に自分の考えをまとめる場を設ける。</li> </ul>  | <p>ノ アジア NIES と呼ばれる国や地域では、都市の中心部に人口が集中して住宅が不足したり、地価が高くなったりしている。戦後、工業化に取り組み、大韓民国では南東部の沿岸地域を中心に重化学工業が発展し、シンガポールや香港は物流の中心地として港や空港が整備されたからである。一方中国では沿岸部と内陸部の経済格差が広がっている。経済発展を目的とした経済特区を沿岸部に設け、外国企業が中国に進出したことで、仕事や高い収入を求めて山脈や砂漠がある内陸部や農村から沿岸部へ人口が移動したからである。このように、人口の移動や増加が、アジア州の特色に影響を与えていることが分かった。</p>  |                         | <p>○ 思 (観察・ワークシート)</p> <p>○ 知 (①②) (ワークシート)</p> <p>○ 態 (観察・ワークシート)</p> |
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア各地でみられる「人口分布の偏り」を日本や身近な地域に当てはめて考察し、学習を振り返る場を設ける。</li> </ul>  | <p>ハ アジア州と同じように日本においても山脈や山地があるところの人口は少ないことや太平洋側の沿岸部に人口が集中していることが分かった。日本の都市部にはスラムのような生活環境の悪い場所はあるのだろうか。</p> <p>ヒ 長野県では、山脈に囲まれた場所でも長野盆地などの平地に人が集中している。アジア州では内陸部の人口が沿岸部に移動することが多かったけれど、日本ではどうなのだろうか。</p> <p>フ アジア州の特色やそれ以外の州の特色が日本や長野県にもあてはまることあるのか調べてみたい。</p>   |                         |  |